



なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会

(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail katano.vltr94@gmail.com

※メールアドレスが新しくなりました。

Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com



ボランティアを
紹介してほしい人
ボランティア活動を
はじめたい人
ボランティアセンターに
お問い合わせください
(Tel 894-3737)
(Fax 891-3340)

ボランティアグループ連絡会活動指針



この2年間コロナ禍の影響で十分なボランティア活動ができない状態が続いていました。メンバーの高齢化による退会・新しいメンバーが増えない・他のグループメンバーとの交流や、ボランティアを利用される方との交流ができない等の課題が出てきました。

そこで、今年度はコロナ下でも前向きに取り組める活動をしたと考えました。名付けて「ホップ！ ステップ！ ジャンプ！ 連絡会」、今年はホップの年として、次のことに取り組みたいと計画しています。



その1 ポスター大作戦！

ボランティアお誘いのポスターを交野市中に貼り巡らそう！

広報板や皆さんのお家にもポスターを貼りボランティアに興味を持って貰いましょう。



その3 地域のフ口と手を結ぼう！

(連絡会所属ボランティア対象・事前申込)

地域で活躍されている様々なプロフェッショナルをお招きしてミニ講演会を開催します。

◇7月19日(火)13:30~15:30

大阪ケアマナ協会交野支部 西さん

テーマ 「お互いを知るための座談会」

◇9月5日(月)10:00~12:00

ヘアサロンVORELO 園田さんご夫妻

テーマ(仮) 「いきいきと活動するためには」



その2 交流の輪を！

ボランティアセンターの階段壁面に意見交換の掲示を、皆さんの一言メッセージをお寄せください。

(今年の決意・質問など)



まだまだ、その4、その5と広がっていきたくて考えています。

皆さんの積極的なご意見をお寄せください。



～つながり×新しい活動×チャレンジ～

夏のボランティア体験プログラム

「人が好き」「誰かの役にたちたい」「余暇時間を有意義に過ごしたい」そんな思いをボランティア活動でカタチにしませんか。オンラインでの交流や分別活動など、コロナ禍でもできる方法や分野もあります。未経験者や社会人、学生さん地元と一緒に活動しましょう。1日だけの参加でも大丈夫です！ 体験以外の活動相談も随時受け付けています。

【募集内容】

対象：市内在住の高校生以上
場所：ボランティアセンター
定員：各回15名まで 事前申込制①のみ5名
申込：ボランティアセンター
☎：072-894-3737
FAX：072-891-3340
申込書は社協HPからもダウンロードできます。

【体験内容】

交流会のみオンライン参加可能日です。

- ① 登録ボランティア向け ICT 講座の講師補助
8/10 (水) 13時30分~15時30分 「gmail活用法」
 - ② 避難所運営カードゲーム「HUG」
8/25 (木) 13時30分~15時30分
 - ③ 障がい者との交流「ほほえみ」ベルマーク分別体験
8/25 (木)、9/1 (木)、9/8 (木) 10時30分~12時
 - ④ 学生交流会
9/7(水) 13時30分~15時30分
- 参加者交流会 ①~④までのいずれかに参加した人が対象です。
9/12 (月) 13時30分~15時30分

リーダー会議 【6月28日】

- ☆会長挨拶
- ・大阪府市町村ボランティア連絡会総会及び講演会(2頁参照)
- ☆連絡会より
- ・連絡会「講演会」2題開催(1頁参照)
- ・今年度連絡会助成金の執行
- ・共同募金 本部申請分について
- ・メッセージカード・ポスターについて(1頁参照)
- ・「なかま」アンケートについて(2頁参照)
- ☆各グループより
- ・現況報告
- ☆Vセンターから
- ・ボランティア体験プログラム 社協日より8月号掲載予定(4頁参照)
- ・ボラセンよってって
- 8月10日 Gmail講習会
- ・連絡会HP更新 7月末締切り
- ・コピー機領収書発行について
- ・リーダースキルアップ研修
- 【4月26日】
- ☆社会福祉協議会より
- ・青山事務局長・職員挨拶
- ☆新年度会長・役員・リーダー挨拶
- ☆連絡会より
- ・令和3年度決算、令和4年度予算、会則・細則についての承認
- ・今年度連絡会活動について

(次回リーダー会議8月23日)



▼6月14日近畿地方の梅雨入りは平年より8日遅れとなった。ところで「梅雨」の由来なり語源は、中国から「梅雨(ばいう)」として伝わり、江戸時代頃より「つゆ」と呼ばれるようになった。

▼漢字の由来は、カビの生えやすい時期の雨という意味で、中国では「微雨」と呼ばれていたが、カビでは語感が悪いため、同じ「ばい」で季節にあつた「梅」の字を使ったとする説と、「梅の熟す時期の雨」の意味とする説があるが未詳部分も多い。▼梅雨の意味はともかく、今年は早くも梅雨が明けるといふ。異例の梅雨明けで酷暑、水不足、電力需要の危機など心配の種だ。

ボランティア研修交流会・講演会、創立30周年行事他
・備品貸し出しについて
・大掃除とカーテンの洗濯について
☆各グループより
現況報告

☆Vセンターから

- ・センターの利用に関する留意事項
- ・センター活動室利用について
- ・コピー機について
- ・センター利用ガイドについて
- ・ボランティア依頼について
- ・Zoom講習会 5/23

令和4年度大阪府市町村ボランティア連絡会総会

久しぶりの対面開催で活発なグループワーク

5月30日、大阪府市町村ボランティア連絡会総会が大阪府社会福祉会館で開催されました。昨年度はコロナ禍によりZoom形式でしたが、今年度は久しぶりの対面での総会となりました。

総会では、令和3年度の事業報告ならびに収支決算が承認され、引き続き令和4年度の事業計画および収支予算について報告がありました。

総会後は、周南公立大学福祉情報学部、守本友美教授による講演会で、「ボランティア活動にみる住民の主体性形成に関する大阪府ボランティア連絡会の活動について」というテーマでお話されました。

ご自身の経験からの研究内容のお話で、「主体性」というのは「自分がやりたい」だけではなく、「利用者が求めているものに対するもの」でもある、というのが印象的でした。

その後、参加者が6つのグループに分かれて、講演内容や各市町村の状況などについて、グループワークを行いました。

交野市が参加したグループでは、「魅力ある連絡会にするにはどうす

ればいいのか」という意見もでしたが、どの市町村でもコロナ禍における活動の難しさや、ボランティアの人材確保など同じような問題を抱えていることがわかりました。

これからの連絡会活動の大きなテーマ（目標）として、持ち帰ってき

アンケートにご協力ください

ボランティアの身近な機関紙「なかま」を目指してアンケート用紙を同封しています。

「なかま」を通して、さらに多様な情報発信ができるように努めてまいりますので、皆さまの貴重なご意見をお待ちしています。

アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

こちらから回答
できます。



なかま次号発行予定

令和4年10月3日(月)

機関紙「なかま」は こうして届きます

ボランティア連絡会役員、会員有志、事務局（オブザーバー）で構成した「なかま」編集会議で機関紙を作成し、各地域の配布ステーション（各戸配布の中継者）へ届け、近くの会員へ配っています。

担当戸数は2、3軒から10数軒と様々です。

現在ステーションの数は60か所で広報委員等が手分けして届けます。

配布先は、センター登録会員の他、交野市役所、市議会、ゆうゆうセンター、小中学校、図書館、市内福祉施設、大阪府ボランティアセンター等です。

「なかま」編集会議にて作成



配布ステーション
約60か所に配達



会員、役所等、学校施設等

役員の

グループ訪問

「朗読グループ」

あい

昨年10月、月に一度の定例会を見学させていただきました。

市広報の音訳を始め、さまざまな音訳録音や、対面朗読など多岐にわたる報告で、会員の皆さんの積極的な活動に驚き、尊敬の眼差しで見えていました。久しぶりに地域での朗読会も開催されたとのこと。ここで朗読デビューされ、ますます活動の幅を広げられた会員もおられたようです。（お聞きしたかった！）

また、別の日に実際に録音をしている部屋も見学させていただきました。パソコンを駆使しての広報製作など、時代とともに作業内容も変化しているそうです。

いろいろな事情で活動を終えた人もおられるようですが、昨年度の養成講座を終了した人の入会もあったそうで、ますます活動が発展されるのを感じました。

「障がい者・施設支援」

ふれんそ

昨年10月に定例会に参加させていただきました。

会員の集まりやすさということもあり、定例会は土曜日に開催。

そのため、地域の自治会館を借りての開催でした。

皆さん、気さくな人で、貴重な話し合いの場にお伺いしたにもかかわらず、まるでメンバーの一員のように温かく迎え入れてくださいました。（ありがとうございました）

この温かさや素敵な笑顔が、施設で利用者の皆さんに喜ばれているんだなあと納得。

30年近く、地域の施設での交流も続いていることも当然のことだと感じました。

現在はコロナの感染拡大状況もあり、なかなか施設に訪問できない状態がつづいているようですが、1日も早く以前のように活動し、利用者の皆さんから元気をもらいたいと、話されていたのが印象的でした。

「子育て広場」

アリス

好天の5月19日(木)「アリス」の活動拠点、「子どもゆうゆうセンター」へ寄せていただきました。

室内の大きな棚には様々なおもちゃが並び、幼児用の滑り台やジャングルジムなど、幼い児が楽しく安全に遊べる心配りがありました。

7ヶ月の男児を連れなお母さんと、1歳9ヶ月の女児のお母さんが見えられ、母親同士の和やかな話が交わされていました。でも会話のなかで「見てくれる人がなく、一日中の子育てが“本当にしんどい”との切実な言葉が胸に迫りました。僅かな時間でも、ボランティアさんとともに子どもを見守り、ホッとひと息つける貴重な和みの時を提供している「アリス」のみなさんの活動に、心温まるものを感じながら帰路につきました。

ボランティアさんの「I♡CHILDREN」のピンクのエプロンがとっても可愛い！

活動日 第1・3木曜日 14時30分～16時

対象年齢 0歳児～3歳児
場所 子どもゆうゆうセンター

Zoomに触ってみました



5月23日、ボラセンよってつての一環としてZoom講習会を実施しました。対象は連絡会登録グループリーダー・サブリーダーで、コロナ禍におけるリーダー会議の効率化やグループ活動の幅を広げることが目的です。

パソコン・スマホ・タブレットなどさまざまな機種での参加でしたが、ICTサポーターの協力を得て、アプリのダウンロードから資料の共有まで体験しました。慣れない動作も多い中、苦労をしつつも和気あいあいと講習は進みました。

新しい試みの定着は難しいため、繰り返し練習が必要ですが、今後はグループ単位での実施など要望を取り入れながらボランティア活動の向上に努めたいと思います。（事務局）

